

中学校部活動地域展開第6回検討委員会議事録

令和8年2月16日15時30分～17時

合志市総合センター「ヴィーブル」研修室

課長挨拶

議長選出

議題 来年の方向性について

【事務局A】

まず来年度の方向性として私たちが考えているのは、拠点校部活動というのを考えております。拠点校と言いますのが簡単に言いますと、合同チームが組めないところを拠点校として指定して、チームとして出ていくという方式です。なかなか難しいですが、後で中体連の方から説明していただきたいと思いますが、拠点校にするためには、片方に部活動がなくなる、もしくは、もともとないところから始まる場所が拠点校方式になります。

合同チームというのは、基本的に人数が組めない、部員数が足りなくて、チームが組めないところを合同ですというのが基本になります。個人戦があるところは拠点校にしかできない合同は認められないというような状況でございます。

続きまして、菊池市のホームページから参考にお出ししております。

拠点校部活動とは、通学する中学校に生徒が希望する部活動がない場合に、拠点校として指定された学校が、部活動の参加を希望する生徒を受け入れる方式です。なお、拠点校への移動時間は保護者の責任による送迎等によるものとなります。これは菊池市のホームページに載っていたものでございます。

※下記「」読み上げ

「令和8年度の拠点校の部活動は、泗水中学校が柔道部を拠点として、受け入れは市内の全中学校から受け入れる。菊池南中学校が剣道部を拠点校として、菊池北中、七城中の剣道部員を受け入れているという状況でございます。留意事項として、拠点校部活動は1年ごとの開設。毎年度更新のため、翌年度以降の拠点校部活動については各部活動へお問い合わせくださいということで、つまり部員数が足りた場合はですね、拠点校はしなくなるということになりますので、その1年ごとの更新という形になります。

大会等への参加は主催される大会等規約などに従ってください。部活動への移動は保護者の責任。拠点校部活動中は拠点校の規則、及び顧問の指示に従う。在籍校の学習活動や行事等の日程が拠点校の部活動と重なった場合は、原則として在籍校の活動が優先。

自分の学校の方が優先ということになります。移動は活動中の事故については、在籍校が加入する災害共済で手続きをします。」ということで、

仮にA中学校に部員数が3名。B中学校に部活動はない。例えば剣道とします。

剣道だとチームに5名いないと団体戦出られません。A中学校の剣道部は3名いるけども、団体戦には出られない。B中学校の部活はないけども、1名社会体育で活動している。

という時は、A中学校を拠点校として、B中学校のその1名がA中学校の拠点校で部員として入り、A中学校が中体連に参加できるという形になります。

合志市の現状を考えた場合に合同部活動というのは、その年の部員数によって変わりますが、一昨年度が、西南中学校の野球と西合志中学校のサッカーが合同部活動でやっておりましたけども、昨年度の部員数でいきますとなんとか足りているような状況でございます。来年度の状況をみないとわかりませ

んけども、どうしてもその合同部活動が認められてない部活で団体戦に出たいというところがあれば、拠点校方式を取っていきたいと思いますので、そのあたりのところの了解を得たいと思って検討しております。

黄色の用紙がございませうけども、これは合志中学校の先生からいただいた、熊本県中体連中学校体育連盟の拠点校部活動参加規定という(案)ですけれども、これが出ておりますので、これについて説明をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【委員A】

はい。こちら熊本県中体連の方から出ている参加規定になります。拠点校としての参加というのは、拠点校部活動の条件の5つに該当しているという場合と、拠点校の部活動規定の①が大事になります。実施の事業主体は市町村教育委員会とする実施主体は公立中学校とするということですので、正直言うと都合よく拠点校ですというわけにはいかないと。自治体の方が今後の流れを見て、例えばこの学校を拠点にしますというところで主導したものに関して、認められるという形になりますので、教育委員会が認めているものに関しては、中体連としてはノーではないという形になります。ただ先ほどの事務局から説明がありまして、拠点校はあくまで団体戦に出るための拠点とかいうわけではなく、例えば今地域展開が今から進んでいく中で、例えば地域展開が部活動数が複数あると、それだけ地域展開が難しいというところで、そこを拠点にしていく。

ですので、合同部活動がなぜ認められていないかという、例えば、卓球とか剣道とかバドミントンは個人種目の延長上に団体戦があると出場機会がないというわけではないですので、合同部活動の条件があるのは、例えば野球とかサッカーとかバレーボールのような団体戦しかないものは、合同部活というのを認められているが、拠点校は簡単に言うと個人戦の種目で団体戦に出場するために、拠点校が存在するというわけではなく、あくまでそこを拠点として部活をして、地域として、今後担っていけるための拠点校であるというふうに認識いただけたらと思います。すいませんよろしくお願ひいたします。

【事務局A】

ということで、将来的には地域展開を重ねた形の拠点校方式を合志市としてはやっいてこうと思っておりますので、何かご質問とご意見ありましたらお願ひいたします。

【議長】

今の説明、ご質問疑問点ございませうか。

【委員A】

あの拠点校に関しては菊池市が進んでいますけど、熊本市は強制的に自治体校区で拠点を今実際組んでいる。例えば江原中と江南中で隣接して移動がいききしやすい場所であるという形で、2つの部活を拠点にする。ただし、例えばその中で野球と野球があつて、20人、20人部活にいたのであれば、必ずしも40人で活動しなさいというわけではないという認識をとっている。ただ例えばサッカーが江原中を拠点にするのであれば、野球は江南中にみたいな形で、グラウンド施設がちょっとなかなか難しいとか、バスケットとかバレーとかは、そのニーズとかによってなので、2つの学校があつて全部を拠点つていう風になっているかどうかではなく、その状況によって拠点にしている。

その合志市の拠点をどの地域のどの部活を目標に拠点校をされようと思つているのかなというのがちょっと質問になります。

【事務局A】

現状では、西合志中学校の剣道部と合志楓の森中の、剣道部はないけど、剣道をやっている社会体育の方がいますので、西合志中学校を拠点校としてやっていけたらなというところで考えております。

【委員A】

それは2つの学校のその1つの部活だけを今後、拠点にしていくのか、例えば、もしそれを剣道が認められれば、じゃあテニスとかバドミントンとかも、例えば西南中は確か男子バレー部がないですけど、西中は男子バレーがありますので、じゃあ西南中校区の子が西中の男子バレーを拠点に行っているんですかと言われた時に、なかなかこうNOとは言いにくいのではないかなと思います。

例えばですけど、そのまま地域移行を絡めてするのであれば、この学校と、この学校みたいな形で行かないと、「いや剣道はしますけど、バレーはしません」とか「バドミントはしません」って言った時には「なんでですか」という質問が絶対来ると思う。

だから例えば楓の森と合志中。西合志中と西南中で拠点校として行けるものを精査して、今後進んでいくとかだと納得はされると思うんですけど、その今の西中の剣道と合志楓の森の剣道だけを拠点にしていくとなると、あのそんなに地域展開に発展しないのではないのかなと、例えばその合志楓の森の生徒が剣道の試合に出ることは今でも可能。社会体育ですので、合志楓の森中として出られますので、そこまで無理にでも拠点校にしないといけないのかって言われた時に、あまり納得がされるのかなってというのがちょっと私の質問というか、今の思いです。

【事務局A】

基本は学校と学校での拠点方式になるわけですか？

【事務局B】

多分違うでしょう・・・

今後のことを考えて、あえて学校と学校でしましょうっておっしゃっているってことですよね。

その方がいいのじゃないかなって話ですよ。

【委員A】

そのほうが、地域展開が進んでいくかなと・・・

例えばですけど、西中と西南のバレー部があったとしても、拠点を西南にすることで、指導者も1名地域の指導者も1名でよくなる。このまま行くと1名1名の2名必要になってきて、例えば人材バンクの人数がどうしても足りない。指導できる人が少ない。そういう風になると思うんですけど、その剣道の合志楓の森と西中だけに絞ると、それは今後の先が広がっていかないというか、それも含めて、その西中と西南でとか合志楓の森と合志で、例えばできるところから拠点にしていくとかいうゴールがあるとわかりやすいと思うんですけど。

その合志楓の森の剣道されている方が何人いるのかなと

【事務局B】

1名です。

【委員A】

その子が西中に正直、絶対行かないといけないのかな？というのが私の感想です。1名でも出られるし、

例えばそこで西中に行って団体を組むとそうなった時に、なんで西中なのか合志中にも剣道もありますし、西南中にも剣道部がありますんで、じゃあなんで合志楓の森のその子が西中なのかって言った時にやっぱりこう返す材料というのがですね、今後必要になるのかなと思うんです。

【事務局A】

はい、なかなか難しい問題ですけども、その例えば、その合志市全体で拠点校という形のやり方をすれば、今言われた西中の男子バレー部があって、西南中の男子バレーをしたい子が西中に行くで、例えば合志楓の森のバドミントンをやっていた子たちが、西中のバドミントンに行くとか、そういうその合志市全体での拠点校方式を取ればいいのかという方向性を持っております。

【委員A】

わかりました。

【事務局B】

今、お話の中で剣道の話だけがあつたかと思うのですが、いろいろあると思います。いろんな私たちも気づいてない分の部活もあると思うので、それこそ今日校長先生方をお願いしてちょっと拠点にしたいとか、合同部活をしたいとかいうご意見がないかというのを伺いたいと思っていました。

それをもとに菊池市のように、この部活はこういうふうに入れとか、そういうのを皆さんで決めていただいて、4月から行けるところはスタートしていきたいなというふうに思っているの、この剣道部にこう固執しているわけではない。いろんな部活を含めて考えていきたいと考えています。以上です。

【事務局B】

中体連としては、その例えばそのバレーは西中が拠点としますよねと柔道は西南中が拠点としました。そういうバラバラできるのですか？

【委員A】

中体連としては、自治体が主体であれば問題ないという条件です。そこに組み方とか、そのくくりが多すぎるとかっていうのは全然ないです。

【事務局A】

ただ、そのこの前そのお話をしていた時に拠点校じゃなくて、そっちに行く学校の部活動がなくならない限りはいけないというような。

【委員A】

絶対ではないですけど、例えば今合志中の剣道部が6、7人いて、西南中が多分20人ぐらいいて、西南中を剣道部拠点にしますって言った時に、合志中も剣道部があって、西南中も剣道部があるのに、拠点方式で行くっていうのは、それって勝利至上主義なんじゃないかって言われたら、ある意味勝利至上主義に見えるのと、拠点っていうのはあくまでいろんなものを1つにする拠点なので、だったら合志中の剣道部がもうなくて。廃部にしていくのであれば、拠点方式で全然問題はないと思うのですが、残っているはそれ拠点って言わないんじゃないかっていう見方もあるのかと。

あと拠点校になれば、あくまで拠点ですので、その学校で出ないといけないという条件が基本ありますので、例えば、合志中の生徒も西合志南として出ないといけない。だから、合志中の生徒が一人、個人戦と

かで勝ち上がっていたとしても、合志中の職員は引率に行かない。あくまで西南が拠点ですので西南の職員に引率もしていただかないといけないという部分がある。

【事務局C】

私ちょうど菊池南中が拠点校になる時におりまして、その時どうしたかという、実は柔道・剣道以外にも候補がありました。それは吹奏楽と合唱だったのですが、吹奏楽部と旭志以外には全部あるけれど、その部活を残したままでの拠点を模索されたけど、顧問がもうNOって言ったので、実は実現しなかったのと、合唱は菊池南にしかないですが、合唱部の子どもたちがその菊池南にそこまで毎日来るかっていう問題も正直あって、それでなくなった。結局、窓口が教頭です。

南中に来る子は南中の教頭が全部手続きをする。泗水中に行く子は泗水中の教頭が全部手続きをするので、基本南中の責任の下ですという形で菊池の拠点校は今進んでいるので、多分されるならそういう形でさっきの出場もだから菊池南中として出ています。剣道部も、という形にはなるかな。実際北中からも七城からも来ていて、団体戦でているという感じです。

【事務局B】

今後ですね。その拠点校の方を考えていかなくちやいけなくて、いろんな学校だったり、市町を今調べたりしているのですが、いろんな仕方があるし、今委員が言われたみたいな、学校ごとという考えはなかった。でも合志市はマンモスなので、皆さんでそういうルールを決めようっていうことを今決めるのであれば、それもアリだと思うので、その辺を先生方のご意見を聞かせていただきたいです。

【議長】

今年はA中学校が多く、B中学校少ないので、こっちで拠点でしたけど、次の年蓋開けたらC中学校がとて多くなって、AとBが少なくなったので、じゃあ次の年はCに拠点校。そんな形でもいいんですか？

【事務局C】

予測ができない。菊池の場合は今登録している。今拠点校を南中は剣道で認めてくださいって教育委員会に申請をしていて、それがいろいろ問題になるのは必ず来年も剣道のできる指導者がいるのか。だから南中と泗水中はそれをずっと思って委員会にも上げている。でも南中は外部指導者もいらっしやるので、剣道は存続できるだろうけど、泗水の柔道の担当がいなくなった時、前年度に上げてどうするのかで、その時点では部員の数は正直わからない。だから部員を気にして今まであげたことは、もう2年しましたけど、なかったんで、部員の規定があるのかなってというのは。

【議長】

受け入れ体制ごとに決めるのですね。

【事務局C】

はい。そっちが先な気がします。

【委員B】

質問していいですか。拠点校とした場合に、自分の学校に部活動がなくて、その拠点校で行っていいよとなった時は、その引率とかその管理というのは、その例えばこれだったB中学校の職員が新たに

【事務局A】

A 中です。A 中の責任。

【委員B】

B 中学校には、例えば剣道で A 中学校に拠点校ができたから行っていいよってなっても、B 中学校が行く剣道の子の管理とかいるんでしょうか？

【事務局C】

手続き申請を A 中の部活に入ってもらったってことです。だから全て A 中がする。少数だから。

【委員C】

拠点校が出来たとしても、生徒本人もしくは保護者がそれを望まなければ、居住地の学校でクラブチームなりに通って剣道で出ることでもできるわけですよ。

そういう選択もできますよ。さっきの部員数もそうですし、指導者もそうですけど、指導者がいたとしても、保護者目線で見ると指導力が高い指導にやりたいなという気にもなるでしょうし、それが団体スポーツになればなおさらそうですね。保護者同士が連携組んで。

あの先生の方にといいまたなんか要求とかニーズも出てくるのじゃないかなと思うのです。ただまたなんかいろいろですね。私も中体連の理事をしていますので、この間委員の話をしっかり聞いてまだあのよく理解はしてないですけど、そんな問題が出てくるのだろうなと思って。

保護者目線・子供目線を忘れずに、ここは討論していかないといけないだろうなと思うし、先ほど剣道を進めていくという時も、そういったニーズがあったのかなと。西中と合志楓の森が一緒になるっていう。以前西中にいましたので、西中の剣道部の子たちと合志楓の森の子が一人剣道の女子がいますけど、一緒に練習していることは知っていたので、そういう風なニーズがもしかしたら、保護者の方たちとかあったのかなと思いつつながら..そういうニーズがそういうのも加味されるのかどうかとかですね。そういうところもなんかちょっと保護者からすると気になるのかなと

【議長】

先ほどの西中を拠点校っていうなんか根拠というか説明、保護者にどう説明するのかと。

【事務局C】

今後も地域指導者が見るからって事ですか？

【事務局B】

今現在やっているの、そのまま中体連、地域移行型部活動に認めてもらえると、そのままこの形で部活動となれるので、そのままやりたいっていうところから始まっているんですけど。

団体戦の絡みの話です。だから個人だったらそのままでもできているでしょって言われるとなんとも言えなくなるので、そのそこがどうですかね。その団体戦を出してあげたいっていう思い。西合志中も団体には出られない。その子が入ることによって団体が両方出られるようになるからウィンウィンだと。いう考えがあるのです。

誰が決めるのか、それをいいというのか、多分親さんもいろんな考えの方がいらっしゃると思うので「いや出してあげようよ」って思われる方もいらっしゃるかもしれないし、いや、「個人戦でいいんじゃない」って

う人もいると思うんですよね。だからその決定権というか、そのどこでどう決めていくのかっていうのがすごく悩むところです。どっかの真似だけでも違いもあるので、一概には言えないのかなと思うし

【委員C】

剣道の話で言うと、こういう話しをしていいのかわからないが・・・合志楓の森の生徒の保護者さんとそんな話をしたわけではないんですけど、強い環境でと思ったら、西南中の方が実績としては高いので、西南中でやりたい。だとしたら、メンバーには選ばれないだろう。

西中にいるとレベルとは私は判断できませんけど、でも選手にはなれるという。2つの保護者のニーズありますよね。選手として出してやりたいニーズがあるので、どっちのニーズをとかですね。

そのニーズをどういう風に我々が叶えていくのかとかもですね。

【事務局B】

だからその一人の子が言ったから、じゃあここでしてあげましょうっていうのも、それはありなのか？どうですかね。

【委員C】

十分保護者ですね。横のつながりがありますし。

【事務局B】

なんかいろんなことが出てくる。言ったもの勝ちじゃないですけど、そういう話も出てきちゃうのもあると思うんですよね。

【委員C】

勝利至上主義に走ってしまいますよ

【事務局B】

どっかで何かこう線を引くべきところではあると思うんですけど。

【委員C】

仮に集まったとしても、その指導目的としていた指導をする指導者の方が転勤すれば、また解散してしまうだったら・・・これがまたですね。

【事務局C】

さっきの人数は大事かなって思います。あんまり多いところに寄れる制度になるとそれが加速するけど、先ほどの団体戦に出たいっていうニーズは一つの判断基準かなって思いますけど。

【委員C】

入部したらなら5月ですね。

【事務局C】

そうですね。

【委員C】

蓋を開けてみたら結局、結構いて、団体に出られましたってこともありますね。

【事務局C】

そこが難しいですね。子供の入り加減が判断できないうちに決めないと間に合わない。手続き的には。

【事務局A】

この承認とか、拠点校をここにしますという承認は、教育委員会の方でいいわけですね。ということは、5月過ぎに拠点校でいきますっていうやり方もいいのですか。

【事務局C】

登録が間に合わなくないですか団体登録とか

【委員C】

ということは、保護者の方たちもこの状況を知っておかないといけないわけですね。ちゃんと正しい判断ができないですね。やっぱうちでしますというのか拠点校に行きますとかいうのも生徒本人もそうだし、保護者の方たちも事前に知っておかないと選べないです。

【事務局C】

だから入学説明会では必ず説明を菊池はして、学校でも事前にも前の年に説明をしているのと、多分その団体登録のことが出てくるのじゃないかなと思うので、5月じゃ多分間に合わないです。

【委員D】

別件で質問していいですか。今指導者の人材バンク状況ですけど。不足している種目はないのですか。あの自分が学校現場にいて、なかなか部活の顧問が決まらないのが、やっぱり柔道・剣道がやっぱりあの武道ですね。

なかなか経験者も少ないし、学校現場に自分からやりますっていうようなあの顧問がなかなかいないので拠点校の話をしているので、今拠点校部活の方向で今話が動いていますけど、例えばもう、なかなか学校現場で指導者が見つかりにくいような今、把握されている人材バンクに登録されている数も影響していると思うんですけど。学校から切り離して、地域のクラブチームで展開していくような部活も今後出てくると思うので、人材バンクの数として、柔・剣道ってどれぐらいいらっしゃるんですか？

【事務局B】

柔道、剣道はいらっしゃらないです。

【委員D】

それで地域展開ができるのかなって。なんか将来的に。

今実際に今西合志中学校の部活顧問は全く剣道の指導はできないですね。外部指導者にお願いしているわけですけど。

それ実際拠点校になってできるのかな。拠点校にする意味があるのかなってちょっと思ったんですね。地域で指導者のスケジュールに合わせて地域でクラブチームとしてやった方がなんか子供たちとか保護者のニーズにも応えられるんじゃないかなって思うんです。

【委員E】

すいません。いいですか。今日は何を話し合う？これ今何を決めている会議ですか。まずその拠点校をどこどこ拠点をするという具体的な話をする場ですか。それとも今後の方向性を決める方向でいいんですかね。

【事務局A】

方向性です

【委員E】

その具体的なところを話し合うのであれば、やっぱりその競技団体と話をしないといけない。例えば、先ほどから剣道の話が出てきて、私も剣道していて心苦しいんですが剣道連盟の方に来ていただいて、その中で指導者を何名出せるのか。そこはやっぱりまずしていかないと、競技団体ごとにそれをしていかないとまず進まないと思います。そのそれぞれの競技団体も、やっぱりその育成という目的があるので、その目的をもとに指導者はまず出していただく。そしてその指導者をもとにそれぞれの中学校に指導していただく。それがまず大事かなと思います。

拠点校を決めるときにも、やっぱりその競技団体がどこどこを拠点校にしたいというところは、やっぱり明確にしていかないといけないのかな。先ほどから出ている試合に出られるから拠点校にするというのはもう考え方としては違いますよね。団体戦が組めるから、拠点にしますという考え方というのは違いますよね。そのための拠点校じゃないので。試合に出る出ないというのを抜きにしてそこでやって、ただ保護者のニーズとしてもやっぱりそこは出てくる場所なので、多少加味していくところはあると思いますよ。継続的にそれが続くように、それぞれ競技団体にどう働きかけをしていくかということが大事かなと思います。その会議をいつもつということかなと思うんですよね。

【委員A】

合志市の場合には西南中と合志は大体7クラス8クラスぐらいあって、正直部員不足っていうのはあんまり合志中も正直ない。

西中と楓は4クラスとかの中規模校で、例えば合わせて。多分7クラスとかになるのかなと。そう考えた時に、先ほども拠点校をその地域展開を広げていくときに、合志市として、合志市を一つにするというのは難しい。正直なところですよ。

人材もないし、施設の距離を考える、例えば今ある合志と西南は部活動とその地域展開も同じブロックの括りで進んでいく。ただ、西中と楓を1つのブロックのように今後することによって、今4つ必要な施設と人材が3つで済む。そのために西中と楓の森を基本的に拠点校でできるものは組んでいくとかいう大枠のゴールがあれば剣道が合致したバドミントンが合致した陸上合致した野球は合致しなかったとかっていうのはできると思う。

ただそうなった時には、今いる生徒の意見もあると思う。例えば子どもたちも保護者も例えば野球とサッカーも11いた時に拠点を望むのか望まないのかとかそういうのもあると思う。ただ、その学校括りを私はちょっと意見したのは、学校括りみたいなイメージと最終的な地域展開のゴールがないと剣道だけやりましたと言って、他のところは認めない理由をもし正直ないと思いますし、あとこちらで書いてあるようにあくまで大会参加を希望する生徒を救うというのがメインですので、個人戦に出場できるのであればもう十分できるんじゃないかなとその一人のための団体戦この一人が来たら団体戦組めるかなっていう安易ではなく、我々もバレーとかやってますけど、新入部員を必死に勧誘してなんとか6人で単独チームでできるようにっていうゴールも持ってますし、それがなくなれば有力な2年生と3年生をのこして1年生いらない

いよって、合同組むからっていうスタンスもできると思うんですよ。

あくまで勝利至上主義はないので、やはりちょっとその大変申し訳ないですけど、団体戦を組めるから楓と西中の剣道を拠点校にしていくっていうのは、ちょっと僕も違うかなとゴールが見えない。その先に地域展開があるかもしくはもうその地区はもうその2つとも剣道をなくして、完全に合志主体の地域展開のクラブで立ち上げれば、この問題もなくなるのではないかなと部活を残さなければいいだけではないかなって個人的には思います。すいませんちょっと長くなりました以上です。

【事務局B】

地域移行型部活動にしたとするじゃないですか。そしたらそのこの拠点校っていう考えからは外れても大丈夫ってということですか？

【委員A】

はい

【事務局B】

4月の時点で、「西合志中の剣道部は地域移行型部活動にします」って言ってしまえば、じゃあこの子たちも来て一緒にということですね。

だから学校から離れてしまえば、拠点校という言い方はせずに、ということですよ。

【委員A】

万が一、西南中と合志中に同じような、僕たちは学校の部活動じゃなくて、そっちのクラブに行きたいのという希望があった時にどうするかっていうルールも決めておかないといけない。それを受け入れるのか、いや、それはあなたたち部活があるのだからノーですとするのかっていうスタンスがないとまたいろんな問題になる。ノーと言えばもうノーでいいと思います。

【事務局C】

4月からどうですかその話なら来年の4月にスタートは無理だけど、着手しなければいけないです。

【議長】

テストのケースみたいな形で、先ほどから出ているように剣道だけをやってみるとか、でないと、他の部活もみんなそういう風にしようというのはとても間に合わないです。

【委員E】

ちなみにその剣道は了承を取っているのですか？剣道をするという了承は取っているのですか。するようになった時

【事務局A】

あれは例えでやってまだ決まっていることではないです。

【委員E】

多分先ほどもあったように、西合志南中学校に他の学校から来たとしても、選手にはなれない。個人戦としても出場もできない。ただ練習一緒にするという事だけは目的ならば来られてもいいですけど、あの多

分レギュラーにもなれないし、多分今はいる生徒も試合で出られない生徒がたくさんいますし、来年度もたくさん入ってくる予定です。というところですね。

だから剣道がその保護者が多分それを望んでないのに、こちらで勝手に拠点校とするのもいかなんかなっていうところですね。

【事務局A】

そこはちゃんと了解をとってから行こうと思っておりますので、拠点候方式の方向で行こうかというところをご相談しているわけです。

【委員 F】

さっきも質問あったと思うんですけど、これは令和 8 年の 4 月から例えば今剣道っていうのが一つ例に出ましたけど、テストケースっていう形で、やってみる何かの競技もするっていうのはもう間違いないですか？ 今日私校長の代理で、今日初めて出席をさせていただいているんですが、最初の方にどの部活だったら、どこの中学校で拠点校としてできるかというちょっとお話も出ていたんですけど、本校ではどの競技が拠点校として可能なのかっていう。職員の中でもそういう話が十分できているわけではないので、それが今日この場で意見として出して、じゃあもうそれで動きますっていうときに自分も出席ですけど、その責任が持てないなっていうこと。うちも先ほどは西合志中学校と合志楓の森で剣道ということだったんですけど、うちの方にも剣道があるので、直接その移行とは関係ないかもしれないけれども、やっぱり同じ競技として。そういった方向で、やっていくっていうのでいいのかとかちょっと今日の時点では。今日の意見をもとに 4 月からスタートっていうのはちょっと難しいのかなって、期間はもう少し必要かと思うんです、もう少しただ来年度とか半年でとかでこういう流れでそこまで決めていきましょうと合志市としてどんな風にこの先をやっているかと思っているのかっていうところをなんかちょっともう少し明確にして半年なり 1 年かけてなんか丁寧に各学校のような話を聞きながら進めた方がいいのではないかな。せっかくならやってみよう。ちょっと今日とこまでというのはちょっと心配だと思っていました。

【事務局 A】

あくまで方向性です。今日の拠点校を決めるということはないですので、ありがとうございます。拠点校に関しては、またあの時間をかけてご説明していくということでもいいですかね。

【委員 E】

今後のスケジュールとは決めなくていいのですか。その結局 4 月から拠点と書いてありますよね。在籍しながらというところで、それをするために、今後何をやるかというところは明確にしないでいいのですか。

【事務局A】

ちょっと時間的には間に合わない状況です。ご意見を聞いたところによりますと。

【事務局C】

これだけじゃなくて、サポーターバンクの方を進めます。多分教頭先生方は今日初めて聞かれるので、そっちを先にです。そっちはそっちで動いていて、これはあくまで別の新しい提案だった。今日で根底に別のサポーターバンクの話があります。

そちらを多分ご存じないので、そっちを先にお話しされたらいいのかなと思いますけど。

【事務局B】

部活動地域クラブ特化の部活アプリクラブマネージャーというアプリについてちょっとご説明させていただきます。国からの説明だったり、県の説明会とかがある時にもこの会社の方がいらっしゃったりしているんですが、これが部活アプリクラブマネージャーですね。

一応あの地域展開に移るにあたって、まずいろんなトラブルなどが起きてしまうのではないかとというところ、子どもと地域の指導者が1対1でコミュニケーションを取ってしまって、何か問題が起きるのではないかと、いろんなことをこう心配されている部分があり、それでこのアプリを導入することによって、連絡機能、スケジュール出欠管理、オンライン集金、入会者管理、勤怠管理活動記録などですね。

このアプリに対してこれだけの内容があるのですが、じゃあこういうのを導入した時にどうなんだろうというところで、まず4月からですね、モデル校を設定して、やってみようということになっております。100名ぐらいの部員。だからこう20人の部員を5部活、全部の学校の中から選んでモデル校としてやらせていただきたいと考えております。それでまず、どこの部活にするかというのはまだお話が全然できていないのですが、「ちょっとごめん」って言われる部活動のところもいらっしゃると思うので、そこの辺はまたここから3月にかけて3月16日がまた次の検討委員会の予定になっております。

そこまでに先生方に直接ご相談させていただけたらと思っております。以上です。

【委員G】

すいません。最終ページに載っている方たちがこの今登録されているということですか。

【事務局B】

地域指導者のです。

【委員G】

この方は外部指導者的な扱いになるのですか。

【事務局B】

地域指導者という形になりますので、今の時点ではこの方々の謝金に対しては部費として直接払っていただくこととなります。

【委員G】

学校の外部指導者には委嘱状というものをしています。この方達には委嘱状を出す必要は？

【事務局B】

出さないです。こちらの管理下に入ります。

【委員G】

ということは外部指導者ではないということですね？

【事務局】

今外部指導者で入っていらっしゃる方も本当はここに登録していただきたい。

皆さんこの登録して動いていく感じになっていくんですけど、まだ年末に外部指導者の借金が2間円程度払っていらっしゃるんですかね。学校から。そこのある部分の指導者の方とこの方のっていうお金の動き

などのその辺がまだ決められてないので、まだですね。

そこはそのままになってしまっているのだからそこを本来ならばもう全員、外部指導者として入っている方も一括するべきだったところだったと思うんですが、どうしてもまだそこができていないので。課題が盛りだくさんで。

【委員G】

中学校部活の試合では、その中体連では多分無理だと思うんですけど、委嘱した指導者に試合を一緒に行ってもらったりとか、そういう形をとっているんですけども、そのサポーターバンクの方たちはどういう扱いになるのか、まあ平常の練習だけ見て、試合には引率できるとか。

【委員A】

自治体の認めた監督。それと部活動指導員で、合志市は部活動指導員がいないので、原則教員が完全に地域展開が行われていけば、例えば、合志市は平日も休日も地域展開完全に移行しました。

例えばクラブこうしのバレーボール部門の監督が全責任の責任者となれば、その方が引率でも問題はないです。

【事務局B】

認定制度ができました。今後。もう一つ認定指導員というのもできますので、そこでこう指導できるようなシステムが国も考えられていて、ちゃんとその方が指導できるような、どうしても今部活とそこが曖昧じゃあどっちが見るんだよとかいう感じにはなっているの。

アプリはよろしいですかね。アプリはこんな感じで、まあちょっと来年試運転としてやらせていただきます。こちらですね。認定制度っていうのになります。

一応、年末に、国の方がこう指針を出した部分に関して認定制度というので、団体にクラブ地域クラブに対して市が認めたっていうところがもうその補助事業だったりとかもうすべてに対して責任の問題だったり対象になります。一般のクラブチームとかとはもうこう区別化するために作られております。逆にまたこれと部活動とが同等の扱い、地域移行型部活動として認められるためのものになっております。認定要件というのがこうですね。

学校の部活動とだいたい同じことが同じようなことが書かれているかと思えます。推進計画の策定ですね。ここはちょっとゆっくり読んでいただけると資料にお渡ししていますので一応地方公共団体市の方が認めた団体に対してという形になります。

これが、一つ一つの部活という形ではなく、一応運営がクラブこうしという形になります。クラブこうしも国からの認証制度というものを受けております。

その団体がそこを管理運営しますということで認定として認められるという形になっておりますので、そのままうちがその管理運営ができることによって全体認められる団体という形になります。

そしてこのメリットですね。

生徒保護者等に対する市区町村による情報提供などができますと地域クラブ活動の運営等への公的支援これがもう補助事業っていうのが来春から始まりますので、その対象になる団体ということになります。地域クラブ活動へ従事する希望する教師への兼職兼業ですね。先生方の兼職兼業の話もここだと認められた団体というところで OK が出るというところですね。

生徒の大会コンクールへの円滑な参加というところになっております。

もう一つがこちらの指導者登録制度ですね。

こういうのがまたできてきましたので、こちらの方がやっぱりずっと最初立ち上げた時から言われているよ

うにどんな指導者を受け入れるのかとか、やっぱり学校の中に地域の人が入るということで難しい問題もあるので、きちんとこういう指導者面談などをして、指導者の登録制度を作りましょうというところになっております。そこで同じように部活動を見て、地域移行型部活動を見て進めていくという形ですね。

こういうのができていきます。これも4月から進んでいきますのでよろしくお願ひします。ちょっと中身の方はゆっくり見ていただけないかなと思います。

続きまして、今サポーターバンクが合志市の中でもやっと動き出しまして。

2月時点で一応14名の登録があります。

メイン指導者でしたいとおっしゃっていただくところもあるのですが、じゃあこのこのサポーターバンクをじゃあこうマッチングするにあたって、今度部活動の方の意向っていうのを伺いしていかないとこうマッチングというののできないので、4月からうちがそこをメインに委託として受けますので、マッチング作業サポーターバンクの人を増やして行って部活動の中で、部活動の人たちがどうやってこう指導者を入れていきたいか、どう活動をしていきたいかっていうのをまめにこう情報収集してですね。そこをうまくつなぎ合わせて地域展開につなげていきたいと考えております。

今どうしても先生方は早く手を離れたいというおっしゃる先生方もいらっしゃると思うのですが、今しばらくお待ちいただいて、先生の中でそのままやりたいとも思っていただけの方もいらっしゃると思います。兼職兼業のルー的なものが一応国の方からも出てきているので、そのまま先生方もこの地域展開で、地域サポーターとして登録っていうのも来年度のも途中ぐらいからは進めていけるのかなとも思っております。

以前お話ししたのは3年後4年後だったですかね。先生方が地域指導者に登録地域指導者ってこう途中から入れるっていうお話をしていたのが、もうちょっと。早めにして先生方でやりたい方は入れていく、手を離れたい方は離れて行って地域展開という形を、組み立てていくっていうのを考えております。今後も、4月からスタートするとはなっていますが、まだ皆様も感じていらっしゃると思うんですが、決め事というのがきちんとなっていない状況ではあるので、実証しながらそこを、皆さんと見ていき修正をかけて、本来の形というものをまた作っていったらと思っております。

【委員A】

私も6回目の検討委員会に参加させていただいて、ちょっと正直わからないところがあってその最終ゴールがわからないんですよ。正直

例えば、玉名型ってよく言われているやつは、例えば今ある例えば4つの中学校で例えると、西合志、合志、西合志南、合志楓の森と4つあって、そのいってん玉名っていうグループでそれぞれやっているんですよ。そうすると西合志中の生徒が合志に入っていたり、合志の生徒が西合志に入っていたりするんですよ。簡単に言うと、この指導者に習いたいからということで選ぶことができるんですよ。

合志市としては、その方法で行くのか、それは一切認めないのかっていうところですね。それを一切認めないんであれば、中学校の部活動の延長上に地域展開が来ると。ただそれを認めますよってなれば、日頃の平日は例えば部活動を残しながら展開していくってなったら、日頃は合志中のバレーの生徒に僕も平日を教えているけど、休日にだったら西合志に行くとかいう状況になるのです。

だから最終ゴールがちょっと正直言ってイメージしにくい。なので、その前段階がよく見えてきてないんですよ。だから最終的に合志市として4つの中学校の部活動の延長上に地域展開を持っていくのか、行き来自由の玉名型を目標にしていくのか、あとは例えば、施設とかその指導者を完全に中学校の教員はもうこの年から一切やらないとか、例えば来年のこの地域展開をしていけば、日曜日に活動してもらって、土曜日は通常の今まで通りの部活動をしてもらうとかっていう決め事があれば、土曜日は例えばですけど、練習試合に行く、日曜日はもう地域にお願ひしてるから、日曜日一切練習試合入れないって統一に

すればできるんですけど、なかなかこう今部活をしながら地域展開を持って同時にこうやりたいけど、お互いがこうどこまで入っていいのかもわからない現状があったり、じゃあ外部コーチが例えば人材バンクに参加してですね。例えばうちに1人バレー部に外部コーチがいますけど、他の人が希望していた場合には、2人いていいんですかとかっという状況が出てくるのかなって。いやじゃあもと合志中はバレー部の外部主導者がいますので、人材バンク入っていますけど、その方はすいませんって言えば、全然こうなんか地域に展開してないっていうか同じ形になりますか。

だから、例えば部活動の外部指導者と地域の指導者完全に分けるのか。例えば、今、平日に部活に来ている外部指導はあくまで部活動の外部コーチなので、地域展開になったところの指導者は別の方ですよ。塾の先生と学校の先生じゃないですけど、あなたはあくまで部活の指導者で平日とかお世話になりますけどすみませんが、土日はクラブこうしの指導者が優先ですのもうあの大丈夫です。と言っているのか

【事務局B】

そういう風には考えてないですね。

何年までにこうしていくっていうのを以前もお話したかと思うんですけど、最終的にはもう本当に全部先生方も地域指導者として登録して部活の延長上に地域展開をしようというのが最終目標です。

部活は残しますっていうのはいずっとお話しています

【委員A】

合志市的には部活を残す？

【事務局B】

はい形式的には部活を残しようというところでスタートしているかと思います。

【委員A】

ということはさっきあったみたいな玉名型みたいなのはしないってことですか？

【事務局B】

ないですね

【事務局A】

たぶんできないと思います。玉名のようには

【委員A】

例えばなんですけど、それを合志市として、こういう風に行きますっていうのがしっかりしてれば、多分迷いはなく、我々もやっていけるんですけど、やっぱりいろんなところのモデリングを参考にしているので、玉名型を参考にするんだったら行き来自由だし、例えば転勤の関係で先生が移動した時にいや西中だけけど、合志に誰々先生が行ったから、俺はそっちに行くのはできませんよって最初からゴールを決めとけば、それでやっていくと思うんですけど、そこがちょっと不透明なので、なんかこうこちらもこうその実証事業って言っても、なかなかこう具体的に何をしているのかがわからない。

例えば、こう日曜日は、例えばうちの合志中バレー部が日曜日は完全に地域展開にしてくださいって言った。その代わり練習試合土曜日しかしない。ただ子供は土日行くことになります。それが果たしてこのガイ

ドラインにとっていいのかなとか。

地域展開の受け皿だけだと正直言って、多分練習試合とかなかなか今の現状は難しいと思う。練習試合とかするならやっぱ学校間じゃないと難しいので、やるのであれば、日曜日にしていただきたい。それは例えば来年モデリングとしてやっていきますとかだったら、もちろんこうやらないといけない時期が来ていると思うんですが、何年までにはこれっていうのはもちろんわかるんですけど、その具体的にここのところが見えてないのです。来年は地域展開するのかしないのかもわからないし

【事務局B】

一応これを以前出したかと思えます。

まず7年から9年にかけて休日の地域展開をしていきたいと思いますというところ。でも休日の地域展開。手前の話になるのですが、平日と休日を別々の指導者になるとここと切り分けて子供たちが混乱してしまうのでかわいそうだから部活をここの流れという形にしようとした話は覚えていますか？なので、ここのところだけ違う活動という玉名のやり方はしないという形ですかスタートしています。

だから、学校とまちとみんなで協力をして、学校とまちの部活動にしようという形で進めたかと思うんです。私たち回りました。その時に先生たちが大変早く辞めたいという意見をいっぱいいただきました。先生たちが大変なのであるならば、まずは地域指導者週末だけでも先生たちの手を離せるといいなというところで、休日のみ地域指導者を入れる、もしくは先生のお手伝いの地域指導者を入れるこの形をまず作り上げましょうと最初の7から9ですよね。

令和7年から9年に。地域指導者とここの一番下の方ですね。別々になっているのはもうあくまでも先生と週末の地域指導者が連携取れているところに限り、週末だけ先生が来なくてもいいですよという状態を作りましょう。今メインで、地域指導の人が教えていらっしゃる場合、地域休日は地域指導の先生だけでも大丈夫だと思います。

そういう形がステップ1です。ステップ2ですね、今度今平日地域指導者に休日の方からちょっと平日までだんだん増やしていきましょうという形にしていきます。

それを増やしていきます。その後にはゆるスポーツクラブっていうのを立ち上げていこうと。そこが週1回しかもう練習しないでいいよという部活がステップ3になっていきます。ステップ4になった時に休日は完全に地域展開という形にしますので、休日を先生方、今までは先生たちは県から休日手当をもらっていらっしゃるんですが、このステップ4になった時は先生方の謝金も保護者、部費から発生するという形で、先生たちも登録していただいている方は地域指導者となります。でこうすることによって休日が完全地域展開という形になります。

その次はステップ5ですね。ここになった時に完全地域展開。もうすべてですね。平日休日ともに先生方にも謝金を発生させて、完全地域展開という形をしましょうという形で進めていきますと。

いうところでお話したかと思えます。これが13年までにここまでをしていきたいと思いますというところでお話して進めさせていただいているかと思えます。まず令和8年ですね。

来年に関してはまず、指導者をどんどん独りつけるかもしくは連携できたらもう週末に関しては、地域で指導者だけをつけるかっていう形でしていきましょうというところを進めていこうと考えております。

【委員A】

来年その令和8年はこれやらないといけないってことですか

【事務局B】

もうもうスタートしなくてははいけません。

今、サポーターバンクを作り上げました。今でそれを4月に入ってうまく1人ずつ。多分いきなり下の部分に関しては、今入っている外部指導者の人が地域指導者に登録をしてもらいたい。

上に関しては、先生方の負担を減らすためにサポーターバンクで登録してくれている人をどんどん入れていくというイメージだからもう4月すぐとは言わず、来年入ったらこれをどんどん進めていきますっていう話ですよ。

【委員A】

その人数は別にMAXはないのですか。

例えば男子バレー部に今いるコーチに人材バンクから1人きて2人とかで最初はなんかメインで見られる方には、時給がいくらでサブの方にはいくらでみたいな。

【事務局B】

今サポーターバンクの方の謝金は自己申告にしました。自己申告にして、それを部費として負担していただきたい。部費なのでマッチングです。その高いお金払いたくないよって言われたら2人も払えないと保護者が言われたら雇わないと。マッチング不成立です。

【委員A】

じゃあ後援会が決めるってことですか？

【事務局B】

受益者負担なので。

【委員A】

後援会が無償で5人も6人も希望したら、後援会がオッケーと言えば5、6人も

【事務局B】

ここがマッチングしたらオッケーです。

【委員A】

今は学校がある意味マッチングしている部分があるありますね。平日の部活じゃ。これはもう完全にクラブこうしがされる。

【事務局B】

そのためのサポーターバンクでそれを運営していくと

【委員A】

学校の外部指導者は1回リセットしてもらえないといけないとことですね。

【事務局B】

ここに本来ならもう皆さん入っていただきたい。

そして改めてあなたは3週3日来られますねっていうところで、バレー部さんに派遣する。納得する。じゃあそこでマッチングですね。という形を進めていきます。

【委員A】

今外部コーチをされている方って、もう長くされている方たちは、暗黙のルールで、来年も自分はするだろうみたいな感じで、こうずっと流れで来ている。じゃあそれをもう 1 回完全にリセットをするっていう感じで学校としてはとらえていいのか。

【事務局】

リセットじゃなく、ここに登録していただくことになる。

【委員A】

登録し直ししないと、来年継続してもらうためには

【事務局B】

サポーターバンクに登録してくださいというのをお伝えいただきたいです。

【委員A】

それは休日に限りですか？平日は関係ないですか？

【事務局B】

平日も。どういう風に指導ができますかっていうところの選択肢もあるので、そこで平日も見ますよって言われる方があったら。9 年まではこれしかしないというわけじゃないです。この②は平日に地域指導者の人も入ってきたりもするのでだからこう絶対じゃあ 9 年まではここっていうわけじゃないです。どんどん先に行ってしまうかもしれないしというところで、一応もうここまでには絶対やっていこうということにマックスの時点を書いていますので、それが前倒しになってどんどん早い展開になっていくことはあり得ます。だからその部活によっていろんな部活があるっていうお話をずっとしている。ゆっくりしたいどんどん早くしたいもうすでに地域指導者もしっかり、整っております。先生ももう手を離せる状況にありますよ。という部活それこそ剣道部の外部指導者さんのところにしても、そこはもう地域展開しちゃって構わないと思う。先生の手から離して、地域移行型部活動として外部指導者に見てもらってという形を作れば、それはもう最終段階に 4 月から行けるかもしれない。だから本当に部活ごとになるので、全部一律に同じペースでは進められないと思います。

【委員F】

ということは、外部指導者、外部コーチっていうものが存在しないと考えた方がいいと。

【事務局】

そうですね。地域指導者という形になります。

【委員G】

外部コーチにこういうシステムをご存じないかもしれないから言わないといけないし、今いる外部コーチは希望しても、もしかしたら保護者会が実は嫌だっていうかもわからないです。そのお願いするかお願いしないかは保護者だけじゃなくて私たち指導者も必要じゃないのに増やされても、いらないので。

【事務局B】

先生方と保護者の考えと子供たちとだから本当にマッチングなので、話し合いとか、そこでどううまく組み合っていくのか。わからない。

【委員E】

最初から聞いたけど、今日は何の話し合いですかっていうところお聞きしたいです。

結局遠くの話であれがこれだっていう話すぎて、結局結論がわからないままで終わっているんですよ。今話を聞いていて、やっぱステップで1をどう進めていくかということを中心に、今日の話し合いを進めるべきだと思うんですよね。違いますか。

まずそれをどうするかということを中心に話し合いを持っていかないから、結局いろんな意見が出て、まとまらないと思うんですよ。ステップ1をどうしていくかという時に、一番最後のこの25ページに載っているこの人材だけじゃ足りないですよ。

この人材をどう集めていくかというところに話し合いのメインがあるのかなと思います。それをどうするかというところを私考えた時に、やっぱり競技団体ごとに集めて、指導者が何名出せるかというところをまずだしていただきたいです。ただこう登録してくださいっていても登録する人なんかいないので、競技団体を集めて、それぞれ何名指導者が出せるかというところをまず出していただきたい。

そしてその指導者をそれぞれの学校にまず割り振っていただきたい。その方を中心に部活動と教員がどの程度できるかというところの話し合っていくというところがステップ1なのかなと思っています。だからそういったところを具体的にいつどうするかというところじゃないと結局話があっち行ったり、そっち行ったりで進んでいかないのかなと思います。

もしそのステップ1をしていくということであれば、私は競技団体ごとに集まっていたら、指導者を何名もちゃんと適切な方を出していただく。それはまず最初かなと思います。できればもう4月になってからじゃなくて、4月にはもうその担当者が決まっている状態で、部活動と相談ができるような体制がなんかできないと難しいのかなと思います。

【事務局B】

このサポーターバンクも、もともと団体登録もお願いしようっていうお話は出ていたと思うんです。

なので、そこにまだ私たちの中でこう声をかけられていない、ただ今広報だったりとかに出している状態で止まっているので、今後進めていきます。

【委員E】

そういうところに団体集めてぞうそれぞれでしていかないといけないんです。

そこピンポイントでお話をさせていただいて、何人出せるのかと具体的に決めていかないといけないと先に進まないと思います。

【委員A】

この3月までに各学校がやらないといけないことを、具体的にリストアップしていただくと、今日私もわかりました。この全ての外部コーチ、今うちの学校のコーチに3月までにお声をかけて、来年度は合志市の仕組みが変わりますので、学校からの外部コーチとしての要請はないので、全部1回この人材バンクに登録して、あくまでマッチングの中、来年あるかどうかかわからない状況になりますっていうのを説明しないとイケないですね。そういうのがちょっと私もすいません分かってなかったんです。

じゃないと結局外部コーチも来年もする気であるのに急にないよってなったり、その部の意向に沿うとかっていうこれもあるので、例えば親御さんも後援会も多分いろんな考えがあって、やっぱり経費がかからない人がいいっていう人もいるだろうし、やっぱり今まで習ってきた人がいいってなれば、新しい新規の参入は絶対できないです。ただ、その人も含めて、外部コーチとして求めていいのか、そういうのがやっぱり絶対出てくると思います。

今までやってしていた人にノーっていうのは結構勇気がいるんです。実際ノーと思ってもですね。

市がマッチングしましたのでって言えばいいんですけど、なんでですかっていうのも絶対あり得る状況もあるかなって。賃金がとか金額がっていうのかなので、マッチングはもちろん県もしてるんであれなんですけど、外部コーチにはまあこういう時代でこういう風になっていきますのでとか、例えば各部 1 人しか無理なんですよとか。いう説明があればいいと思うんですけど、中には納得いかんとか言われる方も多分ゼロではない、と思います。学校が切ったみたいにも多分思われる方ももちろんいるでしょう。だから多分そういうのでも山積みにはなると思いますけど。

【事務局B】

外部指導者の方に、このサポーターバンクに皆さん入っていただきたい。

【事務局A】

ただ、事務局としましては、今教えられている外部指導者の方を優先していこうとは思っています。

【委員A】

じゃあその方たちが継続希望すれば、基本そのままですか。

【委員G】

ただそこには指導者と保護者の意向も組まれるということですか。

【事務局A】

その辺は事務局の方で動きます

【委員G】

子供たちがこの指導者を受けたいという気持ちもあるだろうし。保護者は嫌だと言っても。いろいろあると思うんですけど、それを伝えておかないといけないわけですね。

【事務局D】

謝金に関しましては、まだ流動的なところがあります、今の段階では、こういう形で自己申告でマッチングでという形をとっておりますけれども、正直これも今の分かる範囲内で、我々がちょっと組み立てた制度設計であって、これに国の意向というのがどうしても関わってきます。我々としてもずっと国の意向というのをずっと待っていて、その中でできる範囲で今まで進めてきたのですけれども、やっと年末に国の意向ガイドラインが示されて、今度は補助金で行きますというような話も今やっと出てきて、我々も今慌ててその内容を精査して国に補助金申請をこれからしていかないといけないという形になるんです。

その補助金の内容も例えばじゃあ人材バンクに使える補助金とか、借金に使える補助金とか、とにかくいろいろな補助金が今国の方からも示されていて、例えば謝金に使える補助金がそれを申請できるのであれば、また今後その指導者の方に対するその謝金も見直していく必要があるかなと思うんです。補助金

がそれに当てられるのであれば、単純に自己申告制度ではなくて、ある程度最初に決められた金額を示そうとか、まあそういった考えにもなってきますので、まあとにかくちょっと国の意向と合わせながら、今後ちょっと流動的に考えていく必要があるというところです。

今の時点で完全に決まった制度がお示しできてないというのが大変申し訳ないですけども、我々としても、その今できる精一杯で考えていっているというところです。皆さんの意見をいただきながら、また新年度に入っても変わっていくところもあるかもしれませんが、国の意向としては、8年度から着手しなさいよということになっておりますので、走りながらにはなりますが、いただいた意見をもとに、今後もしかしたら変わっていくかもしれませんけれども、ご協力をお願いしたいと思います。

【委員A】

何度も質問ですけど、3月16日までにしておかないといけないことは、その指導者の登録ぐらいでいいか。あと1ヶ月の間になんかこう3月16日までにしとかなないと、多分次の会もこのような流れになるよりも学校でこれはやっとならないと言っていたかと進みやすい。

【事務局A】

こちらの方で精査してすぐお知らせしたいと思います。

【委員A】

ではわかりました。

【委員E】

今認識はだいぶ違うけど、それは文章にまた来ると思っていていいですか。多分そのアプリとかで多分謝金についてどうするかということとかも、後から来るところでいいんですね。

多分認識が多分全然違うと思います。

私の中では謝金とかは今まで通り部活動指導金から払わないとうまくいかないだろうと私は思っています。今のところ。まだその先が全然決まってないので、だから部活動指導者の方にまだお話とかする段階ではないなと思っています。

多分、部活動指導者の方に、これの登録だけは進めることはできるのかなと思いますけど、それだけでよろしいということですか。

【事務局A】

アプリの方は先生方よろしいでしょうか

【委員A】

使う場面はありますか？

【事務局B】

試運転として部活の中で連絡網や、今後それが地域展開、学校の先生が離れた時に地域の人たちだけで子供たちを見た時に安全ですよっていうのがメインだそうです。

1対1でコンタクトできないようなアプリなんです。子供と先生が。今はグループラインだとか取れるじゃないですか、ライン保護者を通じてこう分かったりとかして裏で繋がったりとかいう心配もありますよ、とそういうのだったり、こう連絡網とかが一括でパッとできますよ。

オンライン集金ですね。今から謝金とかはどうしても出てきたりするので、この集金関係をじゃあどこで見るとこれですることによってこちらの事務局の方で全部一括できるようになります。ということがあるので、じゃあ試しにちょっとやってみませんかというところなんです。

ここで試運転をやってこれダメだったら、もうスパンとやめてじゃあ違う手に行きましょうっていうところでお話しさせていただいています。

【委員A】

それを各学校で1部活必ずやっていただくというのであれば、3月16日までに合志中は来年例えばバレー部でやりますとか野球部でやりますとかっていうのをお話ができる。

【事務局B】

そうですね。

だから一応100人ってこの会社の方が100人程度でやった方がいいですという事で、だから20人部活の5つ部活ぐらいを試しに試運転してみるのが一番管理の面でも参考となるので、ということを言われているので、事務局からこうお声掛けするっていう話だったです。

【事務局A】

各学校その20名程度の部活を決めていただいた方が16日までですね。

そうするとそうですね。

【委員A】

こういう風にしろと言われたらやるしかない時期が来ていると思うんですよ。

地域展開も我々の部活も長いスパンはわかるんですけど、この来年はこれやれ、来年はこれ絶対って言われたらもうやるしかない時期がもうだいぶ来ているのかなと。3月16日まで各部で1つこの部っていうのを決めろと言われたらもちろんやります。

来年、地域展開を週1回ずつでもいいからやれと言われたらやります。じゃないとなんかこう準備ができたところからとか、まあ多分気を使っていってくださっているとは思いますが、そうなるとうなかなかなこう動きに出さないのも実は現実です。ですので、もう来年は絶対これ3月までにこれこれって出してもらおうと、学校内でもうやるしかないっていうところで動き出すのかなと思うので、もしよければそういう意見をいただければとわかりました。

【事務局A】

ありがとうございます。

【委員E】

すみませもう一回。拠点校については、4月から一応できるような主体制をとっているということですか、拠点校部活動については。

ここだけの意見でそれを決めてしまって、例えば4月から拠点校をすれば、もっとうまくいくという部活でもあるかもしれないです。それを今ここだけで、じゃあもうそれはしませんってスパッときってしまって、それはうごかなくなるっていうのを心配しています。

例えば、先ほどあったような西合志と合志楓の森の中学校の剣道の拠点校とかができれば、そこはもしかしたらうまくいくかもしれない。それをここでもう時間がない中で、スパッとそれはやらないというところで

決めてしまうのもいかなものか。だから拠点校をどこまでいつまでにどうするかというところを早く決めないといけないということも決めないといけないのかなと思っています。

【事務局B】

正直な話4月からスタートしようという話で思っていて、ここに持ってきました。でも実際先生方のお話を聞いて、ちょっとまだ考えなくちゃいけないなっていうことがたくさん出てきたのも事実なので、1回持ち帰らせていただいて話して、それをすぐご連絡させていただくという形でよろしいでしょうか。それですいません。

【委員D】

すいませんもう1点いいですか。あの本校に帰って外部コーチの方にこの登録を進めていこうと思います。その時に外部コーチの方もこのシステムを理解されるべきだと思っていて、あのパンフレットとかQRコードがあるパンフレットから入っていきますかね。

そこには、受益者がこうお金をどうするかとかマッチングをしていくって話になった時に、4月からも動いてきますね部活動が、4月から何か待つかないといけないという形になるんですか。例えばうちは剣道部の外部指導者に登録していただいて、新しい保護者の後援会長さんと新しく剣道部を持たれる先生がいらっしゃるかもしれない。その方とマッチングをして、この方が実際動いていく形なんですね。となると、その剣道部の外部指導者さんとか、他の外部指導者の方は、4月には1回待ってくださいという形にご説明するといいいですか。

【事務局C】

本来なら部指導者として登録されていて、年間の謝金で来ているけど、来年一旦それを切るならば、結局4月は決まるまでは待つてもらわないといけない。4月までに決まるなら4月からスタートで。

【事務局B】

本来ならまずその外部指導者の方を入れていただいて、外部指導者の方は今まで通りここを通り抜けただけなんだけど、今まで通りの形で進めようだったですよ。優先でそのままの形まずは実際この4月までに地域指導者を別にこう入れるのは難しいだろうとなので、まずは24名外部指導者の方が合志市にいらっしゃるの、その方をまず登録していただけます。ただそこには謝金の関係が出てくるので、そこでもしかしたら外れたり謝金をいらぬと言われてたりとかいう問題は出てくるかもしれないという話が一つ出てきました。今まで学校からお支払いになっていたんです。だからその学校の予算という形が出てくるので、もう来年はもう予算が決まっていると思います。

その外部指導者の方には正直なところ来年1年間に関しては同じ。その学校の謝金として、その部分で払っていただいてという形。来年のうちに学校にその部費として払ってある部分を全部こちらで本当はお預かりするのかそれともずっとそこで負担してそうやってお支払いをしていくのかとかそういうところのお話し合いができてない状態でここに来てしまっているの。先日そこがはっきりしてないので、学校に今更お金を全部こっちに一旦くれっていうのは無理だと。

ということがあったので、今の外部指導者に関しては、学校から今まで通りお支払いしていただくしか来年は手は打てないですよ。

【事務局C】

だけど登録はしてもらってことですね

【事務局B】

はいはい。登録はしてもらおう。名前的にはここは入れてほしいです。でもお金に関して来年はそのままっていうところ。だから今の外部指導者の方には昨年同様かなんかこう書いていただけると同じように学校から支払っていただけるのが来年1年間是可以できるのかなと来年入ってから学校の予算が決まったり市の予算が決まったりの前に次の年どうするのかっていうのを、来年入ったらすぐにでも決めないといけないのかなっていうお話が出ています。

【議長】

外部指導者に登録をしていただく。謝金部については今まで通り学校の予算の中から払っていただくそして来年度時間をかけながら謝金については検討していく。いいですか
つたない司会でバタバタさせてしまい申し訳ございませんでした。
以上で事務局へお返しします。

【事務局A】

長時間ご審議いただきましてありがとうございました。今日出されました課題につきましては、早急に事務局の方で検付しまして、学校の方にもお知らせしたいと思いますので、よろしく申し上げます。
これをもちまして、第6回検討委員会を終わりたいと思います。お疲れ様でした。